

関東甲信越土を考える会 夏期研修会を開催しました

2025年7月23日

7月8日(火)、茨城県県南生涯学習センターにて関東甲信越土を考える会夏期研修会を開催しました。当日は、関東甲信越土を考える会の会員をはじめ、一般参加者、農機メーカー等の企業関係者、事務局を含め、総勢63名が参加し、『土を耕すとはなんぞや ～理想とする土の状態から逆算して、土耕機をどう選択する?～』をテーマに研修を行いました。

はじめに会長より今回のテーマ選定について、「高騰する作業機を選ぶにあたり、よく理解したうえで選択したいという声を受け、学びの場として今回の研修会を企画しました。自分の経営に活かせる機械かどうか、判断材料としていただきたい。また、今回の研修で興味を持っていた作業機については、秋に実演を予定しています。」と挨拶。



挨拶する渡邊会長



㈱ビコンジャパン 宿谷貴博氏

研修会最初のプログラムでは、㈱ビコンジャパンの宿谷貴博氏より、「土耕機の基礎知識と最新トレンド」と題し、イタリアの農業事情と、ビコンジャパンが提案する土耕機の例として、ブロードキャスターのセクションコントロールを活用した効率的な施肥方法などを紹介。講演では、日本を含む世界の耕作において共通する課題があること、そして地力の維持にはやはり「生物性・物理性・化学性」の三要素のバランスが重要であるとお話をいただきました。

休憩をはさみ、「各農機メーカーによる土耕機および精密農業等の紹介」と題し、各メーカーより情報提供が行われました。㈱ビコンジャパン 正木氏より、同社製品のラインナップやお勧め機種種の紹介。クボタアグリサービス㈱

技術顧問菊池氏からは、異常気象による排水対策と、土質に応じた土耕機の選定についてのお話。続いて、ヤンマーアグリジャパン㈱(株)薄井氏より、ディスクロータリーの紹介と、農家の声を交えた活用事例。そしてスガノ農機㈱からは、開発本部長 波多野氏より、来年度以降発表予定の取組みについての紹介。次に、情報提供いただいた各メーカーの皆様と、㈱関東甲信越クボタ 荒品氏で、参加者を交えたディスカッションを行いました。各メーカーの方々から共通して出てきたワード「クラスト」についての質問や、高騰する機械に対するリース制度の要望など、活発な意見交換が行われました。



㈱ビコンジャパン 正木氏



クボタアグリサービス㈱ 菊池氏



ヤンマーアグリジャパン㈱(株) 薄井氏



スガノ農機㈱ 開発本部長 波多野氏



ディスカッションの様子



その後、スガノ農機 ㈱下村氏より「2024EIMA視察報告」として、世界の作業機の最新情報を沢山のエピソードと写真を交え、お話しいただきました。

最後に、前々回より研修会にご協力をいただいています、つくば牡丹園園長で農学博士の関浩一氏とスガノ農機で共に進めている馬糞堆肥についてのお話がありました。

研修会終了後、場所を移して開催された情報交換会では、参加者間で活発な交流が見られ、有意義な時間となりました。ご協力いただいた関係者の皆さまのおかげで、本研修会は盛況のうちに無事終了することができました。心より感謝申し上げます。



2024EIMA視察報告



馬糞堆肥についての情報提供

